



# KICK OFF 通信

2018年は「人財大国」元年に！

## ◆協力して問題解決する能力

昨今、OECD各国の15歳を対象にした学力調査の結果が出ております。それによると、日本国内198校の高校生ら約6,600人が受験した結果、「協同問題解決能力」については、世界第2位という好成績でした。これは我が国の教育現場では授業や清掃、課外活動など、グループ単位の活動が多く、生徒たちが、集団行動を通じて役割分担や、協調性を学んでいる成果だと言われております。

実社会に出ますと、いろいろな人間関係が交錯する中で、さらに問題解決能力が求められるようになるでしょう。その際には、やはり自分の意志を伝え、お互いに理解し合えるコミュニケーション能力は不可欠だと思われま

## ◆コミュニケーション能力の向上

厚労省の統計では、2055年における15歳未満の人口は790万人となり、他方、65歳以上の人口

は3,600万人になると推計しております。したがって、その時点での働き盛りの40～50代世代が、こうした若年層や高齢者を養っていかなければならないこととなります。これはこれから成長する子ども達に課せられた、大いなる宿命となりましょう。

ところで「勉強ができる子」と「頭の良い子」の違いって分かりますか？自分の力で考え、工夫し、さらに創造する。問題や困難を解決する力を持つことが、真に「頭の良い子」になると言えるのではないのでしょうか。

その力を身につけるためには、幼少の頃からの教育環境、とりわけ家庭における日常的なコミュニケーション、学校における教師・生徒間との対話などを重視すべきです。そしてその上で、子どもの住環境や授業のあり方を深く追求して、その実績や経験を数値化することも検討する必要があります。

## ◆頭のよい子が育つ環境を！ 最近の進学校の入試では、受験

生の創造性や探求心を図る記述式の問題が増えております。すなわち問いに対し、その意図を汲み取り、自分の考えの下にどう表現するのか、その力が試されているのです。積み込み型の勉強では、とても太刀打ちできるものではありません。

「俺がどんなに頑張っても、教えられないものがある」「それは、おふくろの味だよ」。以前、我が恩師がこう言及したことが思い出されます。そう、子どもの記憶の中には、食卓でのコミュニケーションや家庭の味はいつまでも残り続ける大切なものなのです。

日本が経済大国と呼ばれた時代は過去のものとなりました。物的資源が乏しい我が国において、何より人材こそが貴重な資源です。今後40年の間、世界中から様々な情報をかき集め、考える力、コミュニケーション能力を持った「日本生まれ・世界育ち」の子ども達を育成していきましょう。これぞまさに、日本が世界で生き残れる唯一の道であると言っても過言ではありません。



## 【プロフィール】

- 昭和37年 7月28日生まれ  
神奈川県立湘南高校・慶應義塾大学卒業後、サラリーマン生活を経て代議士秘書に...
- 平成 4年 「税は政治なり、税は国家なり」との思いで始めた税理士試験に合格
- 平成 7年 県議会議員初当選～平成19年まで連続3期
- 平成19年 第21回 参議院議員選挙 当選  
予算委員会・ODA委員会などの理事を歴任
- 平成26年 第47回 衆議院議員選挙 当選  
維新の党・税制調査会事務局長  
総務委員会 & 沖縄・北方領土特別委員会 両理事
- 平成29年 厚生労働委員会ならびに国土交通委員会 委員  
民進党・副幹事長 エネルギー調査会事務局次長  
この度の衆議院選挙出馬を見送る

前衆議院議員/神奈川県第5区(戸塚・泉・瀬谷区)